貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位:千円)

			<u>(単位:十円)</u> _
資産の部負債の部			
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	9,253,634	流動負債	2,925,196
現金及び預金	4,328,290	営 業 未 払 金	1,703,111
受 取 手 形	732,030	未 払 金	154,111
営業未収入金	2,594,314	未払消費税等	99,693
販売用土地建物	1,154,265	未 払 費 用	236,181
仕掛土地建物 ロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロロ	164,735	未払法人税等	335,428
貯 蔵 品 前 払 費 用	4,564 89,563	預り金	107,160
前 払 費 用 操 延 税 金 資 産	156,643	当りませる	283,592
森 延 杭 並 貞 崖 そ の 他	35,157	貝 ¬ ¬ ¬ = ± そ の 他	5,916
貸倒引当金	5,929	古定負債	1,083,356
固定資産	8,577,685		
有形固定資産	5,187,646	繰延税金負債	278,812
建物	2,054,649	退職給付引当金	804,544
構築物	116,861	負 債 合 計	4,008,553
機 械 及 び 装 置	23,225	資本の音	R
車輌運搬具	831,874		
工具器具及び備品	63,421	資本金	3,764,000
土 地	2,097,614	資本剰余金	3,989,774
無形固定資産	90,797	資本準備金	3,989,774
ソフトウェア	60,748	利益剰余金	7,133,507
電話加入権	27,227	利益準備金	141,230
そ の 他 投資その他の資産	2,821 3,299,241	任 意 積 立 金	6,337,869
投資 有 価 証 券	2,766,184	配当準備積立金	200,000
差入保証金	283,558	圧縮記帳積立金	47,869
長期前払費用	22,535	別途積立金	6,090,000
そ の 他	240,530	当期未処分利益	654,407
貸倒引当金	13,566	土地再評価差額金	1,816,890
		株式等評価差額金	758,286
		自己株式	5,911
			3,911
		資本合計	13,822,765
資 産 合 計	17,831,319	負債及び資本合計	17,831,319

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(平成15年4月1日から) (平成16年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額	
経 常 損 益 の 部		
(営業損益)		
営 業 収 益	25,650,048	25,650,048
営業費用		
営 業 原 価	23,199,013	
販売費及び一般管理費	1,294,282	24,493,295
営 業 利 益		1,156,753
(営業外損益)		
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	22,903	
そ の 他	31,192	54,095
営業外費用	3,382	3,382
経 常 利 益		1,207,466
特別損益の部		
特別利益		
固定資産売却益	589	589
特別損失		
固定資産除売却損	34,821	
2	22,080	56,901
税 引 前 当 期 純 利 益		1,151,155
法人税、住民税及び事業税	654,000	
法 人 税 等 調 整 額	57,632	596,367
当期 純利益		554,787
前期 繰越 利益		99,620
当期未処分利益		654,407

⁽注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

注記事項

- 1. 重要な会計方針
- (1)有価証券の評価基準及び評価方法

関連会社株式......移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等による時価法(評価差額

は全部資本直入法により処理し、売却原価は 移動平均法により算定)を採用しております。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産

定率法(ただし、建物及び建物附属設備については定額法)を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 15~22年

車輌運搬且 3~6年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年)に基づいております。

長期前払費用

定額法を採用しております。

(4)引当金の計ト基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充当するため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。

(5)リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース 取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっております。

(6)消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

(7)固定資産の減損に係る会計基準

固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意

見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を、当期から適用しております。これによる損益に与える影響額はありません。

(8)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 貸借対昭表の注記

(1)有形固定資産の減価償却累計額

4,108,415千円

(2)貸借対照表に計上した固定資産のほか車輌運搬具、電子計算機等の器具備品・ソフトウェア等をリース契約により使用しております。

(3)受取手形裏書譲渡高

118,693千円

(4)商法施行規則第124条第3号に規定する時価を付したことにより増加した純資産額

758,286千円

(5)土地再評価法の適用

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部改正する法律」(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金として資本の部に計上しております。

なお、再評価の方法については、土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税標準の計算の基礎となる土地の価額を算出するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日.....平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 315.635千円

3. 損益計算書の注記

1株当たりの当期純利益

51円42銭

4.税効果会計関係

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金3,918千円賞与引当金114,085千円未払事業税25,751千円退職給付引当金286,512千円その他19,779千円繰延税金資産合計450,047千円

繰延税金負債

圧縮記帳積立金30,806千円前払年金費用31,023千円株式等評価差額金510,387千円繰延税金負債合計572,216千円繰延税金資産の純額122,168千円

(2)法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	41.6%
(調 整)	
住民税均等割等	5.4%
交際費等永久に損金算入されない額	2.4%
受取配当金等永久に益金算入されない額	0.4%
その他	2.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	51.8%

5. 退職給付関係

(1)採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度と、確定給付型の適格退職年金制度を設けています。また、大阪府貨物運送厚生年金基金に加入していますが、当該厚生年金基金制度は退職給付会計実務指針(日本公認会計士協会平成11年9月14日)33項の例外処理を行う制度であります。同基金の年金資産残高のうち当社の掛け金拠出割合に基づく当期末年金資産残高は4,023,774千円であります。

(2)退職給付債務に関する事項

(2)返噸縮削債務に割りる事項	
イ.退職給付債務	1,074,277千円
口.年金資産	308,458千円
八.退職給付引当金	804,544千円
二.前払年金費用	77,116千円
差引 (イ + ロ + 八 + 二)	38,391千円
(差引分内訳)	
ホ.未認識数理計算上の差異	38,391千円
(3)退職給付費用に関する事項	
イ.勤務費用	101,693千円
口.利息費用	20,984千円
八.期待運用収益	3,701千円
二.厚生年金基金拠出額	148,768千円
ホ.数理計算上の差異の費用処理額	11,535千円
へ. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	279,279千円
(4)退職給付債務等の計算の基礎	
イ.割引率	2.0%
口.期待運用収益率	1.5%
八.退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
二.数理計算上の差異の処理年数	10年